

いつでもどこでも確実に「遅刻・欠席システム」

公的に与えられた環境下で開発した無料のシステム

C:教職員の情報共有

こんな先生方の姿が生まれました!

- 朝の会が始まるまでの間、担任は教室を離れることなく、遅刻・欠席の確認ができ、生徒の指導に当たることができた。
- 電話受付開始時刻前に受信した情報を、タブレット端末等を用いて確認・共有することができた。

遅刻・欠席システムの開発と導入

朝の電話連絡が混雑せず遅刻・欠席を把握



- ・毎朝、数十本にも及ぶ家庭からの遅刻・欠席等の電話連絡があり、担任がいる教室への連絡も校内電話で行っていた。電話回線と教室への連絡にかかる人手には限界があり、担任が校舎内を行き来する負担が非常に大きかった。また、電話が通じず保護者からの連絡が朝の会までに間に合わない事もあった。
- ・端末にインストールされているアプリケーションのアンケート機能を活用することにより、保護者が送信したいタイミングで遅刻・欠席等の連絡ができるとともに、保護者から送信された遅刻・欠席等の情報を集約し、職員室、教室、保健室など複数の場所で共有できるシステムを構築した。

家庭からの遅刻・欠席連絡を担当が教室に いながらリアルタイムで確認



- ・担任は、教室にしながらリアルタイムで生徒の遅刻・欠席等を把握することができるようになった。
- ・担任は、教室で生徒を指導したり、相談等に対応したりすることができるようになった。
- ・遅刻・欠席等の情報を確認したら、すぐに教室内の遅刻・欠席者を記録する黒板に転記することができ、出欠確認をスムーズに行うことができた。

導入のポイント

- 職員室や教室、保健室など複数の場所で、全校生徒の遅刻・欠席等の情報がリアルタイムで把握できる。
- 家庭からの電話連絡が減り、保護者からの電話対応と各教室への伝達の手間が省ける。
- 教員ごとに割り振られた公的アカウントを用いることで、校外からも出席・欠席等の情報を把握できる。
- 過去の情報についてもデータが蓄積されるため、後日確認したり、月別の集計をしたりすることが可能である。
- システムの開発や運用などに特別な費用をかけることなく、校内でシステムの構築を実現できる。